



IBM WebSphere Commerce バージョン 5.5 新着情報



IBM WebSphere Commerce バージョン 5.5 新着情報

ご注意！

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM WebSphere Commerce Business Edition バージョン 5.5、IBM WebSphere Commerce Professional Edition バージョン 5.5、および新版で特に指定のない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。製品のレベルにあった版を使用していることをご確認ください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： What's New in IBM WebSphere Commerce
Version 5.5

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2003.7

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2003. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2003

目次

第 1 章 概要	1	資料	17
第 2 章 製品オファリング	3	動的キャッシング	18
第 3 章 WebSphere Commerce Studio (Windows).	5	E メール・アクティビティ	18
第 4 章 WebSphere Commerce 5.5 にお ける新規および変更されたコンポーネント . 7	7	E メール通知	18
アクセス制御	7	インストール	19
CrossWorlds® 用のアダプター	7	ローダー・パッケージ	19
拡張割引および販売促進	8	ロギング	19
分析とビジネス・インテリジェンス	8	メッセージング	20
閉鎖ループ分析	9	組織管理コンソール (Business Edition)	20
添付のサポート	10	商品アドバイザー	21
ビジネス・モデル	10	商品管理ツール	22
ストアのタイプ	11	QShell コマンド (OS/400 for iSeries)	22
サンプル・ストア	12	見積依頼 (RFQ) (Business Edition)	23
カタログ・コンマ区切り値 (CSV) データ (Business Edition)	14	ストアの開発	24
カタログのフィルター操作 (Business Edition)	14	ストア・リソース (Business Edition)	24
コラボレーション	15	発行	24
構成マネージャー	15	サブシステム	25
契約 (Business Edition)	16	システム管理	25
クーポン販売促進	16	+ Tivoli Web Site Analyzer	26
ディストリビューター統合メッセージ (Business Edition)	16	Web サービス	26
		WebSphere Commerce Payments	27
		WebSphere Commerce の役割	27
		WebSphere MQ	28
		特記事項	29

第 1 章 概要

この文書では、WebSphere® Commerce 5.5 の新機能と変更点について説明します。以前のバージョンの WebSphere Commerce Suite か WebSphere Commerce のどちらかの使用経験があるユーザーのために、新着情報は、今回のリリースの新機能のクイック・リファレンスとして設計されています。

本書では、すべてのエディションの WebSphere Commerce (Business および Professional) を、*WebSphere Commerce* として言及しています。また、WebSphere Commerce Studio, Professional Developer Edition と WebSphere Commerce Studio, Business Developer Edition の両方を、*WebSphere Commerce Studio* として言及しています。別々に記載する必要がある箇所では、特定のエディションまたはプラットフォームに固有の情報をイメージで示します。

以前のバージョンの WebSphere Commerce Suite または WebSphere Commerce から WebSphere Commerce 5.5 へのマイグレーションの概要と手順については、Technical Library Web サイト (<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>) から入手可能な「*WebSphere Commerce* マイグレーション・ガイド」を参照してください。

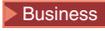
Technical Library Web サイトには、WebSphere Commerce に関する以下の最新情報も含まれています。

- 製品のリリース後に WebSphere Commerce の手引き書とオンライン・ヘルプに加えられた更新内容
- WebSphere Commerce のチュートリアル
- WebSphere Commerce の README
- *technotes* ともいう、WebSphere Commerce の技術情報

この資料の前のバージョンからの更新箇所は、余白に「+」文字を記入して示してあります。

第 2 章 製品オファリング

以下のプラットフォーム版の、 WebSphere Commerce 5.5 の Professional Edition および Business Edition が購入可能です。

-  AIX[®]
-  OS/400[®] for iSeries[™]
-  Linux
 - Linux for xSeries[™]
 -  Linux for IBM[®] @server iSeries
 -  Linux for IBM @server pSeries[™]
 -  Linux for IBM @server zSeries[™] and S/390[®]
-  Solaris オペレーティング環境
-  Microsoft[®] Windows[®] 2000

WebSphere Commerce には以下のものがあります。

- WebSphere Commerce コンポーネント:
 - WebSphere Commerce サーバー
 - WebSphere Commerce アクセラレーター
 - WebSphere Commerce 管理コンソール
 - ローター・パッケージ
 - 商品アドバイザー
 - WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5
 - WebSphere Commerce Payments 3.1.3。以下のものが含まれます。
 - Payments Cassette for Paymentech
 - Payments Cassette for VisaNet
 - Payments Cassette for BankServACH
 - CustomOffline カセット
 - OfflineCard カセット
 - Blaze Rules Server および Blaze Innovator Runtime バージョン 4.5.5
- IBM DB2 Universal Database[™] バージョン 8.1 修正パッケージ 1
-  IBM DB2 Universal Database バージョン 8.1 修正パッケージ 2
- IBM DB2 エクステンダー 8.1 (IBM DB2 Extenders[™] 8.1) フィックスパック 1 ( OS/400 for iSeries 版はサポートされていない)
-  IBM DB2 エクステンダー 8.1 フィックスパック 2
- Intelligent Miner[™] バージョン 8.1

- IBM HTTP Server 1.3.26 (▶ 400 OS/400 for iSeries 版は組み込まれていない。詳細については、「*WebSphere Commerce for iSeries* インストール・ガイド」を参照)
- ▶ Linux IBM HTTP Server 1.3.26.2
- WebSphere Application Server Network Deployment バージョン 5.0。以下のものが組み込まれています。
 - WebSphere Application Server の基本製品
 - WebSphere Application Server Edge Server コンポーネント
 - WebSphere Application Server Toolkit
- ▶ Linux WebSphere Application Server Network Deployment バージョン 5.0.2。以下のものが組み込まれています。
 - WebSphere Application Server の基本製品
 - WebSphere Application Server Edge Server コンポーネント
 - WebSphere Application Server Toolkit
- ▶ AIX IBM Developer Kit, Java™ Technology Edition 1.3.1 SR3W
- ▶ Linux IBM Developer Kit, Java Technology Edition 1.3.1 SR5W
- ▶ Solaris Java 2 SDK, Enterprise Edition 1.3.1 修正パッケージ 5
- ▶ Windows IBM Developer Kit, Java Technology Edition 1.3.1 SR3W
- IBM Directory Server 4.1.1 (▶ 400 OS/400 for iSeries 版は組み込まれていない。詳細については、「*WebSphere Commerce for iSeries* インストール・ガイド」を参照)
- LikeMinds 5.5 によって稼働される WebSphere Commerce Recommendation Engine
- Lotus® SameTime 3.0
- ▶ Business Lotus QuickPlace™ 3.0
- Tivoli® Web Site Analyzer 4.2

+

ハードウェアとソフトウェアの要件の詳細については、ご使用のプラットフォームおよびエディションの「*WebSphere Commerce* インストール・ガイド」を参照してください。

第 3 章 WebSphere Commerce Studio (Windows)

WebSphere Commerce Studio 5.5 の Professional Developer Edition および Business Developer Edition が購入可能です。WebSphere Commerce Studio は、単一の環境におけるすべてのストア開発ツールを統合しています。WebSphere Commerce Studio は、開発ツールに加えて、WebSphere Commerce の開発ライセンスも含んでいます。結果として、WebSphere Commerce Studio は、開発環境でストアを作成およびテストに必要なものすべてを提供します。WebSphere Commerce Studio は、Windows 2000 プラットフォームでのみ利用可能です。

WebSphere Commerce Studio に WebSphere Studio Application Developer が組み込まれるようになりました。これは WebSphere Studio の構成の 1 つで、動的な e-business アプリケーションを作成するための開放型の包括的な開発環境を備えています。WebSphere Studio Application Developer は、以前のリリースに付属していた WebSphere Studio、VisualAge[®] for Java、Page Detailer、アプレット・デザイナー、および IBM 分散デバッガーと取り替えられました。さらに、WebSphere Commerce Studio には Commerce Toolkit for WebSphere Studio も組み込まれています。

API やコマンドの参照情報などの、アプリケーション開発者に関連するオンライン・ヘルプは、WebSphere Commerce Studio にすべて組み込まれています。ヘルプ・システムには、トピックにブックマークを付ける機能や拡張検索機能などの、新しいフィーチャーが組み込まれています。

前提条件を含むハードウェアとソフトウェアの要件の詳細については、「*WebSphere Commerce Studio インストール・ガイド*」を参照してください。

第 4 章 WebSphere Commerce 5.5 における新規および変更されたコンポーネント

アクセス制御

アクセス制御では、ポリシーを使用して WebSphere Commerce リソースが保護されます。アクセス制御ポリシーは、ユーザーのグループに、WebSphere Commerce リソースのグループ上で特定のアクションを実行することを許可します。ユーザーは、1 つ以上のアクセス制御ポリシーによって許可されていなければ、機能に対するアクセス権がありません。

WebSphere Commerce 5.5 (Business Edition) では、アクセス制御のインフラストラクチャーにポリシー・グループのサブスクリプションが追加されています。

WebSphere Commerce 5.4 では、ポリシー所有者の子孫が所有するリソースにポリシーが適用されていました。同一の組織階層中の組織ごとに別々のレベルのアクセス制御が必要な場合に、別々のレベルにすることは困難でした。また、組織階層が非常に深い場合に、階層の最下部に近い組織に適用されているポリシーをすべて把握することも複雑で困難でした。WebSphere Commerce 5.5 では、単純化して分かりやすくするために、最初にポリシーがビジネス要件とアクセス制御要件を基にしてポリシー・グループにグループ化されます。

たとえば、あるポリシー・グループには契約のサポートに必要なポリシーがあり、別のグループは登録済みユーザーのショッピングのみ許可できるとします。さらに、組織のビジネス要件とアクセス制御要件に従って、組織が該当するポリシー・グループに明示的にサブスクライブします。組織がポリシー・グループにサブスクライブすると、それらのポリシー・グループ中のポリシーのみがその組織のリソースに適用されます。祖先の組織のポリシーは適用されません。しかしながら、組織がポリシー・グループに明示的にサブスクライブしない場合は、最も近い祖先がサブスクライブしているポリシー・サブスクリプションを継承します。

アクセス制御について詳しくは、「*WebSphere Commerce セキュリティー・ガイド*」の許可に関する節を参照してください。

CrossWorlds[®] 用のアダプター

Adapter for CrossWorlds バージョン 4.1.1 は、InterChange Server (ICS) を使用して WebSphere Commerce ビジネスを拡張する新しい機構を備えています。この新しいアダプターは、Access Interface を使用します。これは、外部プロセスが ICS の内部でコラボレーションを実行できるようにするアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) です。このアダプターを使用すると、ICS を介して同期メッセージを外部システムに送信することにより、WebSphere Commerce と外部システムを統合できます。WebSphere Commerce はこのアダプターを使用して、ICS にメッセージを送信して応答を待機できます。応答を受信したら、他のビジネス・ロジックを使用して呼び出しコマンドを続行できます。

ICS システムは、ソフトウェア統合製品の集合で、コラボレーションという共通ビジネス・インテグレーション要件のための事前作成済みビジネス・ロジック・テンプレートと、さまざまな開発ツールや管理ツールが組み込まれています。コラボレーションは、オーダー管理や製造部品表管理などの、共通の業界固有のビジネス・プロセス・ステップを定義して自動化します。またコラボレーションを使用して、異社のソフトウェア・プロダクト間のビジネス・プロセスの調整や拡張を行ったり、それらのプロダクト間で意味を成すデータ交換を行いやすくしたりします。

400 OS/400 for iSeries プラットフォームでは Adapter for CrossWorlds はサポートされていません。

Adapter for CrossWorlds は、最初に Commerce Enhancement Pack (2002 年 10 月) 中に備えられました。Adapter for CrossWorlds について詳しくは、「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」を参照してください。

拡張割引および販売促進

ルール・ベースの割引は、WebSphere Commerce アクセラレーターを使用して作成され、WebSphere Commerce サーバー中のルール・サーバー中にルールとして格納されます。新しい機能により、割引と販売促進の単純なモデルと複雑なモデルのフレームワークをカスタマイズする際の、柔軟性が増し簡単になりました。

ルール・ベースの割引は、以下の新しい割引モデルをサポートしています。

- オーダー・レベルの配送料金割引
- アイテム A の X を購入すると、もう 1 つ A が無料で付いてくる
- 商品またはアイテム A、B、または C を購入すると、D が景品として付いてくる

拡張割引および販売促進は、最初に Commerce Enhancement Pack (2002 年 10 月) 中に備えられました。拡張割引および販売促進について詳しくは、WebSphere Commerce Production オンライン・ヘルプを参照してください。

分析とビジネス・インテリジェンス

WebSphere Commerce Analyzer は、e-commerce の結果を分析するための、包括的なツールの集合です。特に、WebSphere Commerce Analyzer のデータマートには、WebSphere Commerce のオペレーショナル・データから抽出したデータが含まれているので、ビジネスに関する広範囲な情報が得られます。ビジネス・ユーザーは、送付された分析レポートを使用して、傾向や顧客の特性を見抜き、戦略的に良い判断を下すことができ、ビジネスを改善する方法を学べます。

以前のリリースの WebSphere Commerce では、WebSphere Commerce Analyzer, Entry Edition を使用して、分析レポートを作成していました。データの読み方を向上させ、傾向に関する理解を高める必要があります。データ・マイニングとビジネス・インテリジェンスは WebSphere Commerce の最重要なコンポーネントなので、WebSphere Commerce Analyzer が前のリリースから大幅に拡張され、ボード・データ分析ツールとレポート作成テクノロジーが含まれています。以下のフィーチャーが拡張されています。

- 独立したサーバーにインストールされるデータマート。このサーバー上で、WebSphere Commerce 運用システムのパフォーマンスの影響を受けずに、詳細なデータ分析やレポート作成を実行できます。データマートは、事前定義済みの拡張可能なレポート作成テーブルを使用して、比較用にヒストリー・データを備えるように設計されています。
- WebSphere Commerce 運用データベースからデータを抽出し、変換して、データマートにロードするツールの集合。これらの抽出ツールは、カスタム・データ要件に応じて簡単に拡張できる事前定義済みの抽出ツールに付属しています。
- データマートに対してビジネス・インテリジェンス分析を行うデータ・マイニング・ツールの集合。このデータ・マイニング・テクノロジーにより、他の方法では判明できないデータ中の傾向や特性を検索して見抜く機能が備えられるので、ビジネス上大きな価値を得ることができます。
- +
+
+
+
+
+
+
+
+
+
+
• Reporting Framework により、広範囲な分析レポートのリストをユーザーに送付する。250 以上のレポートが 15 のカテゴリーに分けられており、ユーザーは特定の興味のある分野に関する必要なデータを入手できるはずですが、このフレームワークは WebSphere Commerce Analyzer によって送付されるので、会社で既存のレポートに変更を加えたり、新しいレポートを作成したりして、システムによって送付されるレポートを拡張できます。この Reporting Framework は、以前のリリースに組み込まれていた Brio Broadcast Server と取り替えられました。この機能より堅固なレポート機能が必要な場合は、複数のレポート作成会社の市販のレポート作成統合パッケージを使用できます。
- マーケティング・マネージャーは、精巧なデータ・マイニング・テクノロジーを使用して、データ中の傾向を識別したり、その種の傾向に適合する顧客プロフィールを識別したりできる。たとえば、前回の販売促進から、複数のアイテムをオーダーして速達を使用した顧客のセグメントを検索できます。データ・マイニングにより、モデルの形式で指定した特性と合致する結果を動的に検索できます。26 の事前定義済みのモデルが送付されており、いくつでも追加できます。顧客プロフィールにより、WebSphere Commerce アクセラレーターの販売促進機能やキャンペーン機能でユーザーのリストを作成できるので、閉鎖ループ分析を行えます。

閉鎖ループ分析

閉鎖ループ分析には、高速の「対アクション分析」テクノロジーが備えられています。閉鎖ループ分析には拡張データ・マイニング分析の結果が組み込まれるので、マーケティング・マネージャーは、WebSphere Commerce Analyzer のデータ・マイニング機能を基にして、明示顧客プロフィールを作成できます。

閉鎖ループ機能を使用すると、明示的に宛先指定された顧客リストが自動的に作成されるので、WebSphere Commerce Analyzer と WebSphere Commerce で手動ステップを行う必要がなくなります。WebSphere Commerce Analyzer によって生成されるセグメント (メンバー・リスト) を使用すると、さらに正確な顧客プロフィールが作成されます (明示プロフィール)。

WebSphere Commerce Analyzer、ビジネス・インテリジェンス、およびデータ・マイニングについて詳しくは、WebSphere Commerce Production のオンライン・ヘルプか、「IBM WebSphere Commerce Analyzer インストールと構成ガイド」を参照してください。

添付のサポート

添付は、Web アプリケーションのすべての分野で幅広く使用されます。添付とは、ユーザーが E メール、要求、または詳細な商品仕様に組み込んで送信できる追加の資料のことです。添付はイメージ・ファイル、テキスト・ファイル、音声、またはビデオ・ファイル、プログラム、文書のいずれでもかまいません。このような形式の範囲があるので、ユーザーが添付を使用する際の柔軟性が大きくなります。

以下の WebSphere Commerce コンポーネントで、添付を使用できます。

- **Business** **契約**。 契約に関する追加情報と、契約に関する一般的な注釈を組み込みます。たとえば、法律家の方は XML ファイルを使用して契約中に法律用語や付則を添付できます。
- **Business** **RFQ および RFQ 個人情報設定**。 バイヤーは、カタログ中でオファーされているさまざまな固有の商品やサービスに関する RFQ を作成できます。バイヤーがカタログ中で自分の必要に合致した商品を見つけられなかった場合、個人情報属性辞書から属性を選択して、商品仕様を正確に定義できます。RFQ に必要な商品の説明、要件、青写真、または仕様を組み込む必要があります。RFQ を作成する際に、個人情報属性に添付を組み込むことができ、バイヤーは属性添付ファイルをアップロードできます。たとえば、バイヤーがシャツをオーダーする際に、そのシャツにピクチャーを追加して、個人情報を設定できます。それからバイヤーはイメージ・ファイルを添付できます。
- **ストアフロント資産**。 スタアフロント資産は、顧客に表示されるオンライン・ストアの一部で、HTML ページ、JSP ファイル、スタイルシート、イメージ、グラフィックス、およびその他のマルチメディア・ファイル・タイプなどの Web 資産が含まれます。たとえば、マーチャントはストアの新しいストア・ロゴやバナー・イメージをアップロードできます。

添付について詳しくは、WebSphere Commerce Production のオンライン・ヘルプを参照してください。

ビジネス・モデル

WebSphere Commerce は以下のタイプのコマース対話をサポートしています。

- **Business** **値チェーン**

WebSphere Commerce 5.5 の新機能として、値チェーンをサポートする機能があります。値チェーンは、複数の企業や関係者が関係するトランザクションをサポートします。商品、サービス、または情報は、作成者から値チェーンの関係者を介してエンド・ユーザーに送付されます。値チェーンには関係と管理の局面もあります。つまり、値チェーン中のパートナーや企業の間を管理したり、これらのパートナーに対する特定の管理サービスをオファーしたりできます。

WebSphere Commerce は、以下の 2 種類の値チェーンを介してトランザクションをサポートし、これらの値チェーンの関係の管理をサポートします。

- **デマンド・チェーン**: デマンド・チェーンは、間接セールス・チャンネルとダイレクト・セールス・チャンネルの両方をサポートします。
- **サプライ・チェーン**: サプライ・チェーンは、商品の調達とソーシングをサポートします。 WebSphere Commerce は、私用マーケットプレイスを介して商

品のソーシングをサポートします。私用マーケットプレイスには、取引先に関するフォーラムが備えられており、契約関係のあるバイヤーに販売用の商品およびサービスがオファーされます。WebSphere Commerce には、値チェーン中の企業のホスティング機能も備えられています。

- **Business** **ホスティング**

WebSphere Commerce は、値チェーン・モデル中のビジネス・パートナーのホスティングをサポートしていることに加えて、インターネット・サービス・プロバイダーやその他のホスティング・プロバイダーにより、マーチャントやその他のビジネスのホスティングもサポートしています。

- **ダイレクト・セールス**

WebSphere Commerce は、引き続きダイレクト・セールス・ビジネス・モデルをサポートしています。WebSphere Commerce を使用して、企業と消費者の間または 2 つの企業や関係者の間の商品、サービス、または情報に関する直接コマース・トランザクションをサポートするサイトやストアを作成できます。

ストアのタイプ

WebSphere Commerce 5.5 で新しいビジネス・モデルをサポートするために、複数のストア・タイプが新しく導入されています。WebSphere Commerce は以下のストア・タイプをサポートしています。

- **顧客対面ストア**

ユーザーが商品に関する情報を入手したり、これらの商品に関するビジネス・トランザクションを行ったりできるオンライン・サイト。ビジネス・トランザクションには、小口取引による購入、企業間のトランザクション、および政府機関と国民または企業との間のトランザクションが含まれます。WebSphere Commerce では、一般用語の「ストア」を、これらすべてのビジネス・トランザクションが行われるオンライン空間を示す語として使用します。

- **Business** **ハブ・ストア**

パートナーまたはクライアントを使用可能にするストア。

- **ダイレクト・セールス・ストア**

企業と消費者の間または 2 つの企業や関係者の間で商品、サービス、または情報を直接取引するストア。

- **Business** **ホストされるストア**

ストアの所有者のために、サイト・オペレーターによってホストされるストア。ストア所有者がストアを管理するオプションもあります。

- **Business** **資産ストア**

他のタイプのストアでリソースとして使用できるファイル資産やデータ資産のコレクションを含むストア。たとえば、カタログ資産ストアとは、カタログの内容を表すデータ資産のコレクションのことです。ストアフロント資産ストアとは、ストアフロントを作成する JSP ファイル、コマンド、およびその他の資産のコレクションのことです。資産ストアはビジネス・トランザクションを実行したり記録したりしません。単に他のストアで使用できる資産を保有しているだけです。

- **Business** **プロキシ・ストア**

ビジネス・パートナーの運用資産を表すストア。このストアは、WebSphere Commerce サイトが外部のビジネス・パートナーと対話できるようにするビジネス・ロジックも処理します。たとえば、プロキシ・ストアはリモートのオーダー資金化システムに転送されるオーダーを資金化したり、サプライヤーの在庫情報やサプライヤーの配送センターに送信される情報を資金化したりできます。プロキシ・ストアには、ストアフロントは含まれず、ユーザーがアクセスすることはできません。外部ビジネスを担当する管理者は、WebSphere Commerce アクセラレーターによってプロキシ・ストアに管理アクセスできます。

サンプル・ストア

WebSphere Commerce には、独自のストアのベースにできるサンプル・ストアが複数備えられています。個々のストアは、その日に売上が最も良い小売サイトにあるフィーチャーを表示するよう設計されており、カスタマイズできます。以下のサンプル・ストアが WebSphere Commerce に備えられています。

消費者向けサンプル (FashionFlow) にはオンラインのファッション・ストアが組み込まれており、消費者への直接販売をサポートしています。FashionFlow には、以前のサンプル B2C ストアすべて (InFashion、WebFashion、WebAuction、および NewFashion) のフィーチャーが組み合わされており、さらに複数の新しい機能拡張が追加されています。

- 登録済みの顧客がクーポンを適用して購入できる。
- 顧客は、商品アドバイザー (商品探査メタフォーと商品比較メタフォー) を使用して、検索結果リストから商品を絞り込んだり比較したりできる。
- 顧客は、拡張検索の手法を使用して、サイズ、カラー、および価格範囲に基づいて検索できる。
- 以下の 4 つのルール・ベース割引が組み込まれている。
 - 無料の配送
 - X を購入して次を Y% OFF で取得
 - X のお買い上げで次の Y を Z% OFF で取得
 - X を購入して無料の景品を取得
- 顧客は、関連商品販売を使用すると、元の購入内容にミックス・アンド・マッチしたり、商品を追加したりできる。
- 顧客は、上位商品販売を使用して、元の計画より安価な商品を購入できる。
- 顧客は、E メールによる興味のあるアイテムを使用すると、自分の興味に基づいて販売促進用の E メールを受け取る。

ストアが作動するのに必要な最小限の資産の集合を備えた、新しい基本サンプル・ストアがあります。このストアは、大量の情報を削除しなくてよいように用意されています。代わりに、この基本ストア・サンプルをストアの基礎として使用し、個々の必要に合わせて作業を進めることができます。

Business B2B 向けサンプル (ToolTech) にはオンラインのハードウェア・ストアが組み込まれており、他の企業への直接販売をサポートしています。ToolTech はセラーの e-commerce サイトで、バイヤーが実行できるタスクを強調表示します。RFQ 要求ツールが新しく組み込まれています。これは WebSphere Commerce アクセラレーターから ToolTech に移動しました。バイヤーがオーダー・アイテムに関

する RFQ を作成することをサポートし、商品の置換を行えるようになりました。買い物候補リストは除去され、要求リストに置き換えられました。

Business デマンド・チェーン・ビジネス・モデルのサンプルには、Commerce プラザ・サイト、カタログ資産ストア、販売店資産ストア、およびディストリビューター・プロキシ・ストアが組み込まれています。販売店は、Commerce プラザを使用すると、ディストリビューターから商品を直接購入できます。販売店は、購買のプロセス中にこのサイトを使用すると、ディストリビューターに興味のある商品に関する価格および商品状況を要求できます。Commerce プラザには、以下の機能が組み込まれています。

- マーケットプレイスの登録
- アカウント情報の編集
- 商品の検索
- お気に入りリストに商品を追加することによる、お気に入りリストの作成
- オーダーの発行 (ショッピング・カートへの商品の追加、価格および商品状況の要求、ディストリビューターへのオーダーの割り当て、ディストリビューター・サイトへのカートの転送、およびディストリビューター・サイトのチェックアウト)。
- ショッピング・カートの内容の保管 (ショッピング・カートへの商品の追加、価格および商品状況の要求)。
- 完全に転送されたオーダーの状況の確認
- ストア作成ウィザードを使用した販売店ストアの作成と管理

Business ホスティング・ビジネス・モデルのサンプルには、Commerce Hosting Hub サイト、ストア・ディレクトリー、サンプル・カタログ、およびストアの作成に必要な資産が組み込まれています。マーチャントは、自分のストアが必要で、他人にホスティングさせたい場合に、このモデルを使用できます。マーチャントが承認されると、ストア作成ウィザードを介してストアを作成でき、マーチャントがそのストアを管理できます。ストアはストア・ディレクトリーに追加され、モールのような機能を果たします。顧客はこのディレクトリーを検索し、興味のあるストアを見つけて、そのストアで買い物できます。Commerce Hosting Hub フィーチャーには、以下の機能が組み込まれています。

- ホスティング・ハブの登録
- ストアのホスティングの要求
- ストア作成ウィザードを使用したホストされるストアの作成と、その後のルック・アンド・フィールの変更
- 共用マスター・カタログの選択、または独自のマスター・カタログの使用
- ストアの管理
- ストアのストア・ディレクトリーへの追加後に、顧客が商品を検索できるようにする。

Business サプライヤー・ビジネス・モデルのサンプルには、Commerce Supplier Hub サイト、総カタログつまりマスター・カタログ、およびストアの作成に必要な資産が組み込まれています。ハブは、マーチャントつまりサプライヤーと、顧客つまりバイヤーが接触する場所です。サプライヤーがこのモデルを使用する理由の 1

つとして、自分のストアが必要で、他人にホスティングさせたい場合があります。多くの場合、サプライヤーは、ハブの一部になり、バイヤーのトラフィックが増えるので、利点があります。バイヤーは、1つの場所で商品を探してさまざまなマーチャントを比較できるので、利点があります。バイヤーは望むならホストされるストアでも買い物できます。Commerce Supplier Hub フィーチャーには、以下のフィーチャーが組み込まれています。

- サプライヤー・ハブの登録
- ストアのホスティングの要求
- ストア作成ウィザードを使用したサプライヤー・ストアの作成と、その後のルック・アンド・フィールの変更
- ご使用のカタログとマスター・カタログとの統合
- ストアの管理
- オークションの作成
- RFQ の作成

サンプル・ストアについて詳しくは、「*WebSphere Commerce* サンプル・ストア・ガイド」を参照してください。

カタログ・コンマ区切り値 (CSV) データ (Business Edition)

マーチャントは、ホストされるストアを作成し終えたら、カタログ・データをデータベースにロードする必要があります。しかしながら、ホスティングのシナリオでは、マーチャントはインターネット・サービス・プロバイダー (ISP) ファイアウォールの外側にいるので、直接データベース・マシンに接続できません。

CSV 形式で単純なカタログ・ファイルを作成できます。マーチャントはこのファイルを使用して、*WebSphere Commerce* アクセラレーターを介してカタログ・データをアップロードできます。*WebSphere Commerce* にはサンプルのカタログ CSV ワークシートが備えられており、独自のカタログ CSV データを作成する際にこのワークシートを手引きとして使用できます。

カタログ CSV データの作成やロードについて詳しくは、*WebSphere Commerce Production* のオンライン・ヘルプを参照してください。

カタログのフィルター操作 (Business Edition)

マスター・カタログ中の商品やカテゴリーのうち特定のストアで販売しないものを除外するには、カタログ・フィルターを使用してください。カタログ・フィルターは、マスター・カタログを、ストアで販売できるすべての商品やカテゴリーの集合ツリー・ビューとして表示します。カタログ・フィルターは以下の 3 つの部分から成ります。

- カatalog・ツリー。カタログ、カテゴリー、および商品の組み込み、カテゴリーおよび商品の除外、カタログ全体へのパーセント価格調整の適用、および顧客が参照できる商品の実価格の表示 (価格の計算オプションを使用) を行えます。

- 「組み込み」ダイアログ。カタログ全体、カテゴリ、または商品を組み込む際に表示されます。「組み込み」ダイアログを使用すると、販売するためにストアに組み込もうとしているカタログ、カテゴリ、または商品のパーセント価格調整を設定できます。
- 「価格調整の設定」ダイアログ。カタログ、カテゴリ、または商品のパーセント価格調整の変更を選択すると表示されます。

カタログ・フィルターについて詳しくは、WebSphere Commerce Production のオンライン・ヘルプを参照してください。

コラボレーション

WebSphere Commerce は、コラボレーション・ワークスペースとカスタマー・ケアという 2 つの Web ベースの機能を WebSphere Commerce アクセラレーター中に備えることにより、e-commerce コラボレーション機能をサポートしています。

Business コラボレイティブ・ワークスペース・フィーチャーに以下の拡張が行われています。

- QuickPlace 3.0 のサポート
- 非メンバー・データ・エレメントが LDAP からデータベースに移動された。したがって、LDAP ディレクトリー構造が整理され、メンバー・タイプのデータに対して排他的になります。
- サポートされる LDAP ディレクトリーの数が増えた。

カスタマー・ケア・フィーチャーに以下の拡張が行われています。

- 複数のキューのサポートと、援助を受けるのを待つ顧客の経路指定と優先順位付けを顧客サービス担当者が行う機能のサポート。WebSphere Commerce アクセラレーターを使用して、キューでの顧客サービス担当者の作成、変更、削除、および割り当てを行えるようになりました。顧客サービス担当者は、このキューに割り当てられた顧客へのサービスを選択できます。
- 顧客サービス担当者が、ストア中のカスタマイズ済みの顧客属性をモニターできる。
- 顧客の要求をキュー中に経路指定できる。

コラボレーションについて詳しくは、WebSphere Commerce Production のオンライン・ヘルプを参照してください。

構成マネージャー

AIX **Solaris** **Windows** 構成マネージャーに、Oracle のテーブル・スペースとユーザーを作成するツールと、リモート Web サーバーを構成するツールが組み込まれました。

構成パスワード・マネージャー・ツールも今回のリリースの新機能で、ユーザーはこのツールを使用して 1 箇所から自分の WebSphere Commerce パスワードを管理できます。

構成マネージャーについて詳しくは、WebSphere Commerce Production のオンライン・ヘルプと、ご使用のプラットフォームおよびエディションの「WebSphere Commerce インストール・ガイド」を参照してください。

契約 (Business Edition)

ある契約が別の契約を参照して、条件を共用できます。たとえば、契約 A が契約 B を参照できます。つまり、契約 A に対して資格のあるバイヤーは、契約 A のすべての条件に対して資格があり、かつ契約 B のすべての条件に対しても資格があります。

契約について詳しくは、WebSphere Commerce Production のオンライン・ヘルプを参照してください。

クーポン販売促進

クーポン販売促進を使用すると、顧客の購入意欲を刺激できます。クーポンは、クーポン販売促進のインスタンスです。クーポン機能に、以下のフィーチャーと拡張が組み込まれました。

- ゲスト顧客がクーポンを資金化したり引き換えたりするためのサポート。ゲスト顧客は、バナー広告からクーポンを受諾し、ウォレットを使用してクーポンを管理し、クーポンの引き換えを行えます。ゲスト顧客はゲスト・セッションに限りアクティブなので、ゲスト顧客は後で使用するためにクーポンを自分のウォレットに E メール送信できます。
- マーケティング・マネージャーが、SKU の有無にかかわらず、商品レベルでクーポン販売促進を作成できる。たとえば、購入条件を「商品 A を 1 単位購入」にできます。
- マーケティング・マネージャーが、カテゴリ・レベルでクーポン販売促進を作成できる。たとえば、購入条件を「カテゴリ B の任意の商品を 2 単位購入」にできます。
- 既存のクーポン販売促進に関する要約情報を提供できる。マーケティング・マネージャーは、特定のクーポン販売促進を選択し、販売促進名、説明、現時点までにオファーされたクーポンの数、オファーできるクーポンの総数、購入条件、割引値、有効期間などの要約を表示できます。
- マーケティング・マネージャーが既存のクーポン販売促進に変更を加えることができる。マーケティング・マネージャーは、販売促進名以外のすべてのエレメントを変更できます。
- e-マーケティング・スポットを使用して、E メールを介して登録顧客とゲスト顧客の両方にクーポンをオファーする。

クーポン販売促進とクーポンについて詳しくは、WebSphere Commerce Production のオンライン・ヘルプを参照してください。

ディストリビューター統合メッセージ (Business Edition)

ディストリビューター統合メッセージは、企業向け間接モデル中の販売店マーケットプレイスとディストリビューター間のビジネス・フローを表します。

販売店マーケットプレイスからディストリビューターへの使用可能なメッセージは以下のとおりです。

- 価格および商品状況の要求
 - 要求: 製造業者の部品番号、要求された数量、および販売店のユーザー ID とパスワードのリスト
 - 応答: 製造業者の部品番号、出荷可能数量、価格、および同梱検査のリスト
- ショッピング・カートの転送
 - 要求: 製造業者の部品番号、要求された数量、および販売店のユーザー ID とパスワードのリスト
 - 応答: ディストリビューター Web サイトのショッピング・カートの、販売店マーケットプレイスへの URL リダイレクト
- バッチ可用性の要求
 - 要求: 製造業者の部品番号のリスト
 - 応答: 製造業者の部品番号と出荷可能数量のリスト

ディストリビューターから販売店マーケットプレイスへのメッセージ

- オーダーの確認通知
 - 要求: 標準的な製造業者のショッピング・カートから購入したアイテム、ショッピング・カート ID、ディストリビューターのオーダー ID、および購入した商品の数量のリスト
- オーダーの状況
 - 要求: ディストリビューター ID/製造業者のショッピング・カート ID、およびオーダー配送の状況
- バッチ可用性のスケジュール
 - 応答: ディストリビューターは、事前定義済みのスケジュールで製造業者の部品番号と出荷可能数量のリストを送信します。

資料

WebSphere Commerce 5.5 に関する 2 冊の新しい手引き書が導入されました。「管理ガイド」および「サンプル・ストア・ガイド」です。「管理ガイド」は、サイト管理者向けの簡潔な手引き書です。「サンプル・ストア・ガイド」は、アプリケーション開発者を対象としており、WebSphere Commerce に備えられているサンプル・ストアについて説明されています。

「WebSphere Commerce アクセス・コントロール・ガイド」は、WebSphere Commerce 5.4 中に付属していましたが、「セキュリティー・ガイド」と組み合わせられました。また、ほとんどのセキュリティー認証情報は、オンライン・ヘルプから、「セキュリティー・ガイド」の認証の節に移動しました。

API やコマンドの参照情報などの、開発者に関連するオンライン・ヘルプは、WebSphere Commerce Studio にすべて組み込まれています。WebSphere Commerce Studio に組み込まれているオンライン・ヘルプ・システムには、トピックにブックマークを付ける機能や拡張検索機能などの複数の機能拡張がなされています。オプションで、このオンライン・ヘルプ・システムを Infocenter として実行することも

できます。つまり、WebSphere Commerce Studio help without running WebSphere Commerce Studio にサービスを提供できます。

WebSphere Commerce のヘルプ・システムは、サイト管理者およびビジネス・ユーザー向けに調整されました。API とコマンドの参照情報は、WebSphere Commerce Studio に付属のオンライン・ヘルプに移動しました。

動的キャッシング

WebSphere Commerce のサーブレットとページのキャッシングが、WebSphere Application Server の動的キャッシングのインフラストラクチャーの一部になりました。

WebSphere Commerce の動的キャッシングのセットアップに関する情報は、「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」の動的キャッシングの章を参照してください。

E メール・アクティビティー

E メール・アクティビティーを使用すると、E メールを使用して顧客にニュースや販売促進を送付できます。この方法により、しばらくの間ご使用のサイトにアクセスしていない顧客に連絡したり、新規のイベントや新商品に関する最新情報を正規の顧客に提供したりできます。E メール・アクティビティーは、WebSphere Commerce アクセラレーター中の E メール・アクティビティー・ダイアログを使用して作成します。E メール・アクティビティーは、以下の点に関して拡張されています。

- サイト・レベルではなくストア・レベルで E メール送付を停止する。
- E メール・アクティビティーに関する統計を表示する。

E メール・アクティビティーについて詳しくは、WebSphere Commerce Production のオンライン・ヘルプを参照してください。

E メール通知

E メール通知を使用すると、どのメッセージが送信済みで、どのメッセージが未送信かをモニターできます。管理コンソールのサイト・レベルかストア・レベルから、以下の操作を行えます。

- E メール・メッセージが送信されているかいないかを示す要約レポートを表示する。
- SMTP サーバー接続履歴に基づいて、システムが E メールを再送信する回数を設定する。
- システムが E メールを再送信する回数を設定する。
- SMTP ポートを選択する (▶ [400](#) OS/400 for iSeries プラットフォームではサポートされていません)。
- サイトまたはストアのトランスポート方法を構成する。
- SendMsgCmd コマンドを使用して、E メールの内容タイプ・オブジェクト (MimeMultipart など) を設定する。

- E メールヘッダーにオプションの「返信先 (Reply-To)」フィールドを設定する。
- サポートされる各国語の対象をカスタマイズする。
- RFC2822 インターネット・メッセージ形式で定義されている標準的なインターネット・アドレス仕様を使用する。

JavaMail プラグインがバージョン 1.1 からバージョン 1.2 にアップグレードされていることに注意してください。管理コンソールの新しい「**モニター中**」メニューから、E メール通知機能にアクセスできます。

E メール通知について詳しくは、WebSphere Commerce Development のオンライン・ヘルプを参照してください。

インストール

WebSphere Commerce 5.5 およびすべての関連ソフトウェアは、WebSphere Commerce インストール・ウィザードによってインストールできるようになりました。既存のインストール方法の標準およびカスタムに加えて、新しいフィーチャーの即時インストールもあり、これを使用すると最小限のユーザー対話で WebSphere Commerce を手早くインストールして WebSphere Commerce インスタンスを作成できます。

WebSphere Commerce のインストールについて詳しくは、ご使用のプラットフォームおよびエディションの「*WebSphere Commerce インストール・ガイド*」を参照してください。

ローダー・パッケージ

以前の WebSphere Commerce Catalog Manager に相当する、ローダー・パッケージは Web エディターに組み込まれなくなりました。

ローダー・パッケージについて詳しくは、WebSphere Commerce Development のオンライン・ヘルプと、「*WebSphere Commerce ストア開発者ガイド*」を参照してください。

ロギング

WebSphere Commerce のロギングに、WebSphere Application Server のロギング機能である、JRas Logging Toolkit を使用できるようになりました。JRas は、メッセージ・ロギングと診断トレースのプリミティブを備えた複数の Java パッケージから成り、以下のものが組み込まれています。

- **ロガー**。ユーザー・コードと対話する基本オブジェクトです。メッセージ・ロガーはメッセージ・レコードを作成し、トレース・ロガーはトレース・レコードを作成します。
- **ハンドラー**。出力装置やイベント・コンシューマーを介して抽象を設けます。
- **フォーマッター**。ハンドラーを構成し、特定のタイプのイベントを形式設定できます。

- イベント・タイプ。メッセージやトレースには独自の事前定義済みイベント・タイプがあります。
- イベント・クラス。JRas はメッセージとトレースのイベント・クラスを定義します。

JRas を WebSphere Application Server ランタイムに組み込んだり、J2EE 環境で使用したりするには、WebSphere JRas 拡張機能を使用してください。この機能を使用すると、WebSphere のメッセージとトレースの相関が向上します。

ロギングについて詳しくは、「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」を参照してください。

メッセージング

WebSphere Commerce のメッセージング・システムを使用すると、WebSphere Commerce と外部環境との間で通信できます。この通信には、バックエンド・システムや外部システムとの間でメッセージを送受信したり、WebSphere Commerce 中でイベントが起きたことを示す通知を顧客や管理者に送信することが含まれます。旧リリースの WebSphere Commerce では、メッセージング・システムとして IBM CCF を使用していました。WebSphere Commerce 5.5 は Java 2 Enterprise Edition コネクタ・アーキテクチャ (J2EE/CA) 規格にマイグレーションされましたが、メッセージング・システム機能は変わりません。

さらに、メッセージング機能拡張には以下のものがあります。

- すべての送信済みメッセージと、E メールが送信されているかいないかを示す要約レポートを保持できる。
- 以前に送信され、データベースに格納されているメッセージを再送信できる。
- 新しいトレース・コンポーネントの WC_SENSITIVE_INFO は、WebSphere MQ または HTTP 要求による着信 XML メッセージと内容を含む、すべてのユーザー機密情報をログに記録する。
- Web サービス用の SOAP メッセージ・マップが追加された。
- XML パーサー・プラグがバージョン 2.0 からバージョン 4.0 にアップグレードされた。

メッセージングについて詳しくは、WebSphere Commerce Production のオンライン・ヘルプを参照してください。

組織管理コンソール (Business Edition)

組織管理コンソールを使用すると、読者やバイヤー管理者が、ご使用のサイトやストアにアクセスする組織を制御できます。組織管理コンソールは、バイヤー側のインターフェースです。組織管理コンソールを使用すると、バイヤー管理者は、組織内の顧客およびそれらの顧客によるオーダーを承認することができます。バイヤー管理者はさらに、バイヤーのメンバーにアクセス・レベルを割り当てることもできます。

WebSphere Commerce 5.4 では、組織管理に関係するすべての機能が、管理コンソールから組織管理コンソールに移されました。 WebSphere Commerce 5.5 では、以下の新機能が組み込まれました。

- 「**組織管理 (Organization Management)**」メニューを使用して、組織を検索する。組織リストには、名前や親組織などの検索基準を満たす組織のリストが表示されます。
- 「**メンバー管理**」メニューを使用して、暗黙に所属しているメンバーをグループに組み込んだりグループから除外したりする。
- 「**メンバー管理**」メニューを使用して、組織のロックやロック解除を行う。組織をロックすると、この組織の下位ユーザーがログオンできなくなります。

組織管理コンソールについて詳しくは、 WebSphere Commerce Production のオンライン・ヘルプと、「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」を参照してください。

商品アドバイザー

商品アドバイザーは、インタラクティブ・オンライン商品カタログを作成します。顧客はこのカタログから、ショッピング・メタフォーを使用して、ご希望の商品のさまざまな検索方法を使用できます。商品アドバイザーには商品アドバイザー管理ユーザー・インターフェースという新機能があり、以下のタスクが組み込まれています。

- 検索スペースの作成。商品アドバイザーでは以下の 2 つの検索方法を使用できます。
 - 分離検索スペース。データベース・テーブルを追加して、既存の商品データを再フォーマットし、最適化されたパラメトリック検索 (個々のカテゴリにフォーカス・オンされている) を使用できるようにする必要があります。カテゴリと属性の情報が、基本データベース・テーブルから分離されます。
 - 基本検索スペース。これは、インスタンスの構成時に作成される WebSphere Commerce データベースを検索します。

どちらの検索スペースも、データベース中の商品アドバイザー・テーブル中に属性メタデータを追加する必要があります。

- 商品探査メタフォーの作成。このメタフォーは、特定の商品のカテゴリに精通した顧客を対象としています。この顧客が、ご希望のフィーチャー値を選択すると、商品データのパラメトリック検索が開始されます。パラメーター値と合致する該当商品の結果リストが表示されます。
- 商品比較メタフォーの作成。商品比較メタフォーは、関連商品を横並びに表示するので、顧客はそれらの商品の間の類似点や相違点を識別できます。
- ガイド付き販売メタフォーの作成。ガイド付き販売メタフォーは、操作の開始方法が分からない顧客を対象としており、一連の多肢選択の質問を備えています。それぞれの質問に回答すると次の質問が決まり、最終的に商品リストを整理し小型化して検索を行えるようになります。 Guided Sell Administration Tool には、マーチャンダイザーがガイド付き販売をセットアップするための使いやすいユーザー・インターフェースが設けられています。

新しい商品アドバイザー管理ユーザー・インターフェースは、最初に Commerce Enhancement Pack (2002 年 7 月) 中に備えられました。 Guided Sell Administration

Tool は、最初に Commerce Enhancement Pack (2003 年 2 月) 中に備えられました。詳しくは、WebSphere Commerce Production のオンライン・ヘルプを参照してください。

商品管理ツール

WebSphere Commerce アクセラレーターの商品管理ツールでは、さまざまなウィザードやノートブックを使用して、ストアのマスター・カタログ内の商品を管理することができます。商品管理ツールは、以下の点に関して拡張されています。

- 商品管理動的テーブル。このテーブルを使用すると、カタログ商品取引情報を直接更新できます。この動的テーブルを使用すると、コピー機能、貼り付け機能、および直接編集を使って大規模な商品の更新を容易に行えるようになります。
- バンドルやパッケージ (ダイナミック・パッケージおよびパッケージ、以前のパッケージに相当する) を作成する新しいウィザードとノートブック
- サポートされているさまざまなタイプのカタログ・エントリーの間取引管理アソシエーションを作成する、新しいウィザードとノートブック
- 以下のものを検索する、整理された検索手法。
 - 特定のカタログ・エントリー
 - 同じ情報やフィーチャーを共有する複数のカタログ・エントリー
 - 取引管理アソシエーションに使用されるカタログ・エントリー
 - バンドルおよびパッケージ

商品管理ツールに対する更新は、最初に Commerce Enhancement Pack (2002 年 10 月) 中に備えられました。商品管理について詳しくは、WebSphere Commerce Production のオンライン・ヘルプか、「*Product Management Tools for Catalogs Guide*」を参照してください。

QShell コマンド (OS/400 for iSeries)

以前のバージョンの WebSphere Commerce では、CL コマンドまたは固有のコマンドによって、OS/400 for iSeries コマンド行ユーティリティーが備えられていました。今回から、すべてのコマンド行ユーティリティーを QShell から実行することになりました。コマンドを実行するには、STRQSH コマンドを介して QShell を入力する必要があります。以下の表を利用して、新しい QShell コマンドを探してください。

表 1. コマンド名の変更

元の CL コマンド名	新しい QShell コマンド名
CHGWCSPWD	chgwcspwd.sh
CHKWCSSTG	stagingcopy.sh
CLNWCSDDB	dbclean.sh
CPYWCSSTG	stagingcheck.sh
CRTWCSINST	CreateInstance.sh
CRTWCSPMP	wcs_pmpassword.sh
ENDWCSSVR	stopServer (WebSphere Application Server に備えられている)

表 1. コマンド名の変更 (続き)

EXPWCSSTS	ExportStats.sh
EXTWCSAC	acpextract.sh
EXTWCSDTA	massextract.sh
GENWCSDTD	dtdgen.sh
IMPWCSSTS	ImportStats.sh
LODWCSAC	acpload.sh
LODWCSACD	acpnload.sh
LODWCSDTA	massload.sh
LODWCSUG	acugload.sh
MIGWCSINST	wcim.sh
MIGWCSSCH	migratedb51.sh または migratedb54.sh
PREWCSMIG	premigratedb51.sh または premigratedb54.sh
PRPWCSSTG	stagingprop.sh
PUBWCSSTO	publishstore.sh
RESWCSID	idResGen.sh
STRWCSCFG	config_server.sh
STRWCSSVR	startServer (WebSphere Application Server に備えられている)
TRNWCSTXT	txttransform.sh
TRNWCXML	xmltransform.sh

QShell について詳しくは、OS/400 for iSeries の資料を参照してください。

見積依頼 (RFQ) (Business Edition)

見積依頼 (RFQ) は、WebSphere Commerce で使用できる取引メカニズムの 1 つです。バイヤーは、カタログ中でオファーされているさまざまな固有の商品やサービスに関する RFQ を作成できます。

RFQ 要求ツールが拡張され、バイヤーが必要な属性を指定してオーダー商品に関する RFQ を作成できるようになりました。セラーが要求されたオーダー・アイテムと置き換える既存の商品をカタログ中で見つけられない場合は、セラーは新しい SKU を生成し、バイヤーの必要に応じて新しいカタログ商品が作成されます。新しい SKU を生成するには、WebSphere Commerce アクセラレーターの商品管理ツールを使用します。セラーは、既存のカタログ・エントリーを参照する場合と同じ方法で、RFQ 応答中の新しい商品を参照できます。

オーダー RFQ の作成について詳しくは、WebSphere Commerce Production のオンライン・ヘルプと、「WebSphere Commerce サンプル・ストア・ガイド」を参照してください。

ストアの開発

ストア・リソース (Business Edition)

WebSphere Commerce では、1つのサイト中に、同じストアフロント、バック・オフィス、またはストア・データのストアを複数サポートするために、サイト中のすべてのストア間で多数のストア・リソースを共用できるようになりました。

WebSphere Commerce アーキテクチャーには、ストア・リソースを共用しやすくするために、以下の概念が組み込まれています。

- **共用可能リソース**

WebSphere Commerce 中の複数のリソースが共用可能リソースとして指定されています。サイト中のストア間でこれらのリソースを共用できます。リソースのリストについては、「*WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド」を参照してください。

- **資産ストア**

資産ストアとは、他のストアで利用できる共用可能リソース (ビジネス作成物、ビジネス・プロセス、およびストアフロント資産) のコレクションのことです。たとえば、WebSphere Commerce では、値チェーンのサンプルにサンプル・カタログ資産ストアとサンプル・ストアフロント資産ストアが組み込まれています。サンプル・カタログ資産ストアには、バーチャル・カタログを作成するのに必要なカタログ作成物がすべて含まれています。ストアフロント資産ストア (販売店、ホスティング、およびサプライヤー) には、バーチャル・ストアを作成するのに必要な資産がすべて含まれています。その中には、ストアフロント資産 (JSP ファイルなど)、ビジネス・プロセス (オーダー処理など)、ビジネス・ポリシー、およびアクセス制御ポリシーが含まれます。

- **ストア関係:**

WebSphere Commerce には、資産ストアを含むリソースを共用しやすくするために、ストア関係の概念が導入されています。ストア関係の概念には、以下の関係が含まれています。

- **ストア間の関係**

WebSphere Commerce は、サイト中のストア間の関係を数種類サポートしています。たとえば、デマンド・チェーン・ビジネスで、ストア間にホストされるストアの関係を作成すると、あるストアが他のストアをホストできます。また、デマンド・チェーン・ビジネスで、ストア間に参照関係を作成すると、あるストアで顧客がディストリビューターのストアを参照することができます。

- **ストアと資産ストアまたは共用リソースとの間の関係**

ストアと資産ストアまたは共用リソースとの間の関係により、ストアが使用する資産ストアや共用リソースが決まります。ストアと複数の資産ストアまたは共用リソースとの関係を作成できます。つまり、複数のカタログ資産ストアまたはストアフロント資産ストアとご使用のストアを関連付けることもできます。

発行

発行機能は、発行内容と発行場所を定義できるようになり、柔軟性が増しました。発行ユーティリティは、ストア・サービスから管理コンソールに移されました。ストア・プロファイル、税、および配送料金ノートブックは、WebSphere

Commerce アクセラレーターに移され、ストア・アーカイブではなくデータベース中の生きたデータを編集できるようになりました。したがって、ストア・サービスはなくなりました。

開発環境は WebSphere Studio Application Developer に移動しました。

ストア開発について詳しくは、「*WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド」を参照してください。

サブシステム

WebSphere Commerce のサブシステムは、WebSphere Commerce サーバーのコンポーネントです。今回のリリースの WebSphere Commerce では、サブシステムが再編成され、以下の機能が組み込まれました。

- カタログ・サブシステムには、オンライン・カタログ・ナビゲーション、取引管理フィーチャー、買い物候補リスト、および商品/カテゴリ/価格設定の検索機能が備えられている。
- マーケティング・サブシステムには、ご使用のサイトに多数のマーケティング機能を備える。広告、電子クーポン、個人情報設定、ビジネス・インテリジェンスなどのセールス・イニシアチブをフィーチャーしたマーケティング・キャンペーンと、顧客プロフィールが備えられています。
- メンバー・サブシステムには、ユーザー、組織、およびメンバー・グループの管理が備えられている。このサブシステムは、登録、認証、アクセス制御、およびセッションとプロフィールの管理サービスを管理します。メンバー・サブシステムは、システムのユーザー、組織、およびメンバーと、それらの役割およびアクセス制御を定義します。
- 新しいサブシステムである取引管理サブシステムには、割引、関連商品販売と上位商品販売に関する提案、および販売促進が組み込まれている。
- オーダー管理サブシステム (以前のオーダー・サブシステムに相当) に、オーダーの資金化、オーダーの配送業務、在庫、および支払いが組み込まれるようになった。
- 取引サブシステムには、バイヤーとセラー組織の間で商品や商品の集合の価格と数量を交渉することに関係のある論理、機能、およびデータが備えられている。このサブシステムには、オークション、契約、および見積依頼 (RFQ) コンポーネントが組み込まれています。

以前の在庫、メッセージング、ネゴシエーション、およびサーバー・サブシステムは、新しい構造に組み合わされました。

WebSphere Commerce サブシステムについて詳しくは、WebSphere Commerce Development のオンライン・ヘルプを参照してください。

システム管理

WebSphere Commerce のシステム管理に以下の拡張が行われています。

- 管理機能の拡張:
 - WebSphere Commerce 「カスタム」 インストールによって、システム管理オプションを単独でインストールできる。

- 問題判別機能の拡張:
 - WebSphere Application Server と統合された WebSphere Commerce ログイン・インフラストラクチャーである JRas を使用して、共通ツールを使用したり、システム全体でログイン・データを相関したりできる。
 - 拡張メッセージ情報。これは、1300 を超える個々のコマース・メッセージに関する説明と推奨アクションの統合ライブラリーです。この情報は統合されており、オンライン・ヘルプ、 WebSphere Application Server Log Analyzer、 WebSphere Studio Application Developer と AST ヘルプ、または WebSphere Application Server 管理コンソールから検索できます。すべての拡張メッセージは、 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Studio のオンライン・ヘルプで利用できます。
- パフォーマンス・モニター機能の拡張:
 - 組み込まれている WebSphere Application Server PMI (Performance Monitoring Interface) を使用すると、 Tivoli Performance Viewer を介して WebSphere Commerce データを表示できる。

システム管理について詳しくは、「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」を参照してください。

+ Tivoli Web Site Analyzer

+ IBM Tivoli Web Site Analyzer バージョン 4.2 は、Web データを有効な情報に変換し、ビジネス・オペレーションの正常実行をサポートします。この製品は、
 + e-business インフラストラクチャーの正常性と保全性に関する全体像を分かりやすく
 + 示します。 Tivoli Web Site Analyzer は、 Web サイトの使用状況の収集、格納、
 + およびレポート作成を実行して、サイト訪問者とサイトとの対話やサイトのパフォ
 + ーマンスに関する重要情報を提供します。

+ Tivoli Web Site Analyzer には以下のフィーチャーが備えられています。

- + • Web ページ情報を動的に収集する。
- + • Web サーバーのアクティビティー、訪問者の統計、および動作に関する詳細なレ
 + ポートとビューを作成する。
- + • マルチチャネル・データ収集により、広域に分散する Web サーバー・ログを単
 + 一のオープン・データウェアハウスに統合する。

Web サービス

Web サービスは、新しい種類の Web アプリケーションです。 Web サービスは必要なものを完備した自己記述型のモジュラー・アプリケーションで、 Web を介して発行したり、配置したり、呼び出したりできます。 Web サービスは、単純な要求から複雑なビジネス・プロセスまでの範囲内で呼び出せる機能を実行します。 Web サービスをデプロイして登録し終わると、他のアプリケーションがデプロイ済みのサービスを見つけて呼び出すことができます。 Web サービスは、 Simple Object Access Protocol (SOAP)、 Web サービス記述言語 (WSDL)、 Universal Description Discovery and Integration (UDDI) レジストリーなどの規格が基礎になっています。

WebSphere Commerce のビジネス機能を、外部システムからアクセスできる Web サービスとして使用可能化することにより、 WebSphere Commerce をサービス・プロバイダーにすることができます。外部システムからサービス提供される Web サービスを WebSphere Commerce が呼び出せるようにすることにより、 WebSphere Commerce をサービス・リクエスターにすることができます。

WebSphere Commerce のビジネス機能を Web サービスとして使用可能にする機能は、最初に Commerce Enhancement Pack (2002 年 10 月) 中に備えられました。Web サービスについて詳しくは、「*WebSphere Commerce Web サービス・インプリメンテーション・ガイド*」を参照してください。

WebSphere Commerce Payments

WebSphere Commerce Payments (以前の Payment Manager に相当) の最新バージョンは、WebSphere Commerce に統合され、オンライン支払い処理が自動化され、行いやすくなりました。Payments 自体は、WebSphere Commerce のインストール内容と構成の一部です。以下の新しい機能が組み込まれています。

- 新しい Cassette for Paymentech をサポートする。
- Cassette for VisaNet は、SSL ゲートウェイを使用して、インターネットを介してクレジット・カード・トランザクションを処理することをサポートする。また、Vital Processing Services 決済ネットワークに加えて、First Horizon Merchant Services 決済ネットワークを介して、トランザクションを処理できるようにします。

WebSphere Commerce Payments では、SET™ および CyberCash 支払いメソッドはサポートされなくなりました。

詳しくは、WebSphere Commerce Payments Web サイト (<http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/payment/>) を参照してください。

WebSphere Commerce の役割

WebSphere Commerce 中の役割は、特定のユーザーのアクセス・レベルと、そのレベルで変更を加えられる特定のリソースを定義します。現りリリースの WebSphere Commerce には 2 つの新しい役割が導入されています。それは、チャンネル・マネージャーと登録済み顧客です。

- 企業向け間接サイトのチャンネル・マネージャーは、ハブ・サイトと、関連したディストリビューターおよび販売店を管理する。この管理には、ディストリビューターと販売店の契約の作成とインポートも含まれます。チャンネル・マネージャーは個々の販売店組織を作成できます。
- 登録済み顧客はマーケットプレイスで買い物できる。登録済み顧客の役割を獲得するには、まずユーザーをマーケットプレイス中に登録し、セラー管理者が承認しなければなりません。

現りリリースでは、3 つの役割がサポートされなくなりました。それは、ストア開発者、調達マネージャー、およびストア管理者です。

WebSphere Commerce の役割について詳しくは、WebSphere Commerce Production のオンライン・ヘルプを参照してください。

WebSphere MQ

現リリースの WebSphere Commerce では、既存の Adapter for WebSphere MQ がマイグレーションされ、新しい Java 2 Enterprise Edition コネクター・アーキテクチャー (J2EE/CA) インフラストラクチャーを使用するようになり、JMS/MQ と統合されました。

接続プーリングを使用できます。接続リングは、WebSphere MQ Server に接続します。接続リングを使用すると、以前の JMS 接続が期限切れでなければこの接続を使用して、JMS サーバーに対する接続を再確立できます。WebSphere Commerce 5.5 は、WebSphere MQ バージョン 5.3 のみサポートしていることに注意してください。

WebSphere MQ (以前の MQSeries®) について詳しくは、「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む。）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

Lab Director
IBM Canada Ltd. Laboratory
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この文書には、他社のインターネット・サイトへの参照を含む、他社製品の情報が含まれている場合があります。IBM は、そのような情報の正確性、完全性、または使用については何ら責任を負いません。

この製品は、SET プロトコルに基づいています。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

(C) (お客様の会社名) (年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 (C) Copyright IBM Corp. 1996, 2003. All rights reserved.

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

- AIX
- CrossWorlds
- DB2 Extenders
- DB2 Universal Database
- IBM iSeries
- Intelligent Miner
- Lotus
- MQSeries
- OS/400
- pSeries
- S/390
- Tivoli
- VisualAge
- WebSphere
- xSeries
- zSeries

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

SET および SET ロゴは、SET Secure Electronic Transaction LLC の商標です。

UNIX は、The Open Group がライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

